

給与水準と失われた 30 年における経済変化

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは労働生産における利益構築が、先端技術における高い利益環境とともに、経済構造の転換が失われた 30 年において行われたことである。これらは先進国が、自己経済の転換をおこなったためであり、これらの改革は、自由経済システムというルールにおける新しい現実である。

先端産業は高い利益性を有する。これらは経済戦争という現実における勝敗が、存在するためである。

これら先端産業における経済安全保障は、自己プレゼンスの永続を明確に求めるものであり、自由貿易システムはそれを肯定するものである。

これらは労働生産性におけるコスト基準を向上させ、給与水準の変化を与える。

これら経済環境と現実には先端性における高い利益性と第 3 次産業における必要性における需要と供給という、自己経済における現実が、その自己サイクルにおいて歳入の創出を自由経済システムにおいて構築するという経済の新しい循環を有するのである。

給与水準は、労働生産性における高い利益性の創造を有するからなのである。これらは企業の高い利益性に基盤するものである。

これらの現実には、経済における安全保障が、明確に政治における合意として要求されることを意味するものである。

これらは国家が新しい自己基準において国家転換を行うことで、これら新しい現実への対応を可能とする。またこれら経済におけるヒエラルキーに対して、新しい融和と協調における世界の提案を実現できるものである。これらは岸田首相の提案する新資本主義における理解として提示できるものである。

これらは、世界の 2 分化へ、第 3 の世界を提案できるのである。これらは融和と協調、平等という新しい世界の理想における合意と協力を実現できるものである。